

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年4月10日（金）

2 確認箇所

- ・復水貯蔵タンク周辺（図1）
- ・3号機原子炉建屋南側（図1）

3 確認項目

- （1）1～4号機建屋周辺におけるフェーシングの現況
- （2）変圧器撤去作業の状況

4 確認結果の概要

（1）1～4号機建屋周辺におけるフェーシングの現況

東京電力は、放射線量の低減及び雨水の地下浸透抑制のために、構内地表面をアスファルト等で覆うフェーシングを進めている。1～4号機建屋周辺の陸側遮水壁内側においては、約6万㎡のうち約58%（令和8年3月末時点）のフェーシングが完了しており、今後さらに、フェーシングのエリアを拡大していくことが計画されている。

今回は、フェーシングが進められているエリアのうち、令和7年度に工事が実施された1号機及び2号機の復水貯蔵タンク（以下「CSTタンク」という。）周辺の状況を確認した。（前回確認日：[令和6年12月13日](#)）

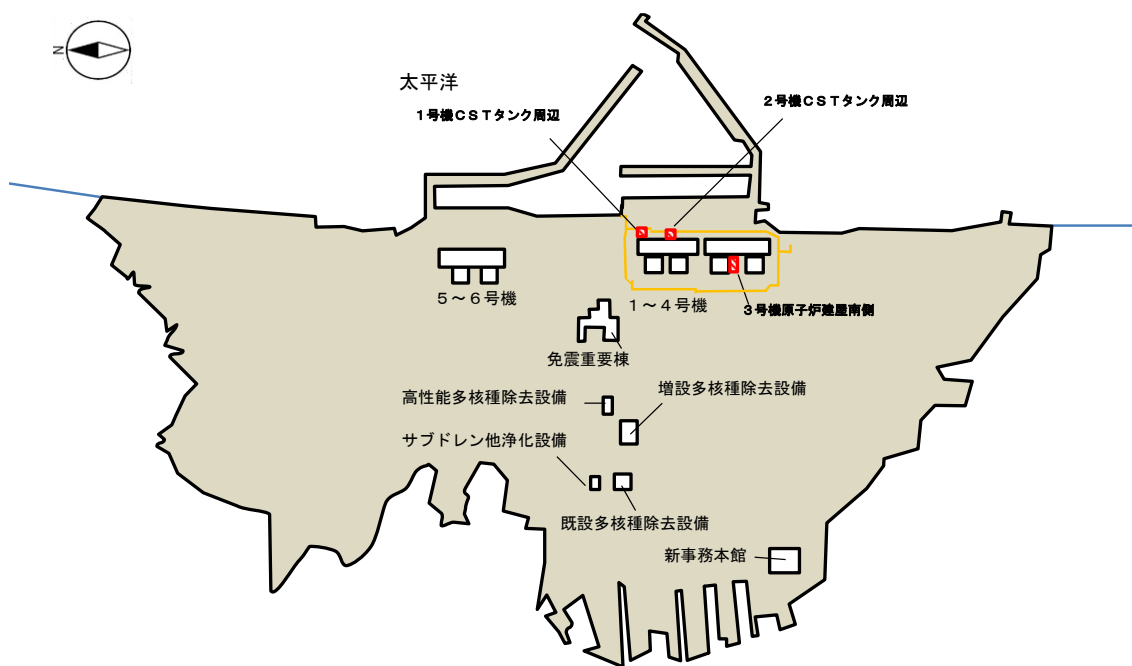
- ・1号機及び2号機のCSTタンク周辺はコンクリートによるフェーシング工事が完了していた。また、フェーシング面に降った雨水を陸側遮水壁外側の排水路に導くための側溝が整備されていた。（写真1）
- ・CSTタンク周囲の一部において、雨除けカバーが設置されていた。（写真2）
- ・東京電力は、フェーシングや局所的な建屋止水等により汚染水の発生量を令和10年度までに約50～70㎡/日に抑制することを目指している。

（2）変圧器撤去作業の状況

4（1）と同様に、3号機原子炉建屋南側エリアにおいてもフェーシング工事が計画されており、工事に先立ち、当該エリアに設置されている変圧器の撤去作業が進められていることから、その状況を確認した。

- ・主変圧器の解体に向けて、大型バンドソー（帯鋸盤）を設置するための架台の設置作業が進められていた。（写真3）

- ・ 所内変圧器A及び起動変圧器A・Bが撤去されていた一方で、所内変圧器Bは未撤去であった。(写真4)
- ・ 主変圧器周辺は比較的高線量(0.1～0.5mSv/h程度)であるため、作業エリア内に付近の線量当量率を表示するとともに、可能な限り高線量エリアに近づかないようにするなど、被ばく低減対策が講じられていた。
- ・ 解体作業が実施されているエリアはYゾーンに設定されており、エリア境界には空気中の放射性物質濃度を監視するための連続ダストモニタが設置されていた。連続ダストモニタの指示値を確認した結果、異常は認められなかった。
- ・ 確認した範囲において、変圧器からの絶縁油漏えい等の異常は認められなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
1号機CSTタンク外観



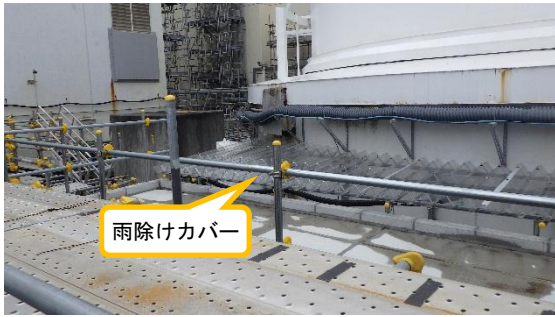
(写真1-2)
1号機CSTタンク周辺のフェーシング状況
※1号機CSTタンク北側から撮影



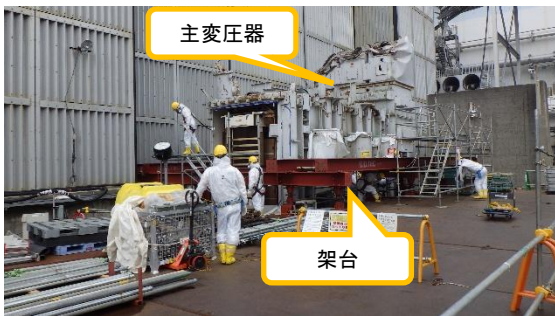
(写真1-3)
2号機CSTタンク外観



(写真1-4)
2号機CSTタンク周辺のフェーシング状況
※2号機CSTタンク南東側から撮影



(写真2)
雨除けカバーの設置状況
※2号機CSTタンク南側から撮影



(写真3)
主変圧器周囲における架台の設置状況



(写真4-1)
所内変圧器Bの状況



(写真4-2)
起動変圧器A設置跡の状況



(写真4-3)
起動変圧器B設置跡の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。